

## (25) 埋立てに伴う地形改変が大阪湾内部生産有機物の堆積過程に与える影響評価

### 予算

平成29年度 大阪湾圏域の海域環境再生・創造に関する研究助成制度

### 概要

内部生産有機物の堆積状況を明らかにするために大阪湾の広域で採泥調査を実施し、底質の粒度組成、有機物、金属元素の分析を行った。また、内部生産有機物および河川由来懸濁物の挙動について数値シミュレーションを実施した。底質のTOC、TNと多くの粒度組成項目、金属元素項目に高い相関関係が認められ、これらの項目は主に淀川河口部から神戸空港東およびそこから関西国際空港へ向けて南方に舌状に伸びる範囲で比較的高くなった。一方、 $\delta^{13}\text{C}$ 、 $\delta^{15}\text{N}$ については淀川河口部でのみ値が小さく、陸由来有機物の影響範囲は湾奥部の狭い範囲に限られていた。数値シミュレーションの結果、淀川から出水イベント時に流入する河川由来懸濁物の挙動は、北部港湾域の埋立地や構造物による影響を強く受け、過去には明石海峡まで西進していた水塊が、現在ではポートアイランドや神戸空港にぶつかることにより南方向へ輸送された。大阪湾の海底堆積物分布は、環境要因、生物要因、人為要因により刻々と変化しており、過去の調査結果と比較すると粗粒化・細粒化する海域が見られており、有機物の堆積状況が変化していることが明らかとなった。

### 担当者

秋山 諭、上田真由美、田中咲絵、横松宏幸、曾根耕治